

農研NOW

春
号
平成25年4月

森のくまさん

日本一 のお米に!!

トップクラス

今年も寒かった冬が過ぎ去り、ようやく桜が咲き誇る春がやってきました。

農研センターの数ある成果のひとつである、県育成品種「森のくまさん」。このお米がなんと「平成24年度米の食味ランキング」で全国の有名品種を抑えて、日本一の栄冠をつかむことができました。

また、肉用牛のオリンピックと言われる全国和牛能力共進会では、熊本県育成種雄牛の「平茂幸」が銀メダル獲得。

営業部長「くまモン」とともに全国トップクラスの農研センターに期待してください。

コシヒカリとヒノヒカリ両親に持った、農業研究センター育成第1号の熊本県オリジナル品種「森のくまさん」。

この品種は、九州で多く作付けされている「ヒノヒカリ」よりも高温に耐えてさらに美味しいお米をつくろうと7年もの歳月をかけて、つくったお米です。

また、より高い気温にも強い品種として育成した「くまさんの力」も、今回の「米の食味ランキング」で、初登場にして最高ランクの特Aを獲得しました。

日本一になった熊本県のお米。みなさんはもう食べてみましたか？

目次

稼げる農業を目指して P.2
今、試験研究中の課題はこれ

こんなものあるよっ P.3
視察研修ならこれいかが？

©2010熊本県くまモン

ラボからこんにちは

農業研究センターは、県内各地に点在する、7つの専門研究所と3つの地域研究所の合計10の研究所から構成されています。

このコーナーでは、これらの研究所をピックアップして紹介します。



ぼろたん

球磨農業研究所



球磨農業研究所は、球磨郡あさぎり町にある、地域対応研究所です。

球磨地域における、盆地中央部の水田地帯から、畑大地までの多様な農業経営に対応した、品種の選定や栽培技術の改善のため技術開発に取り組んでいます。

具体的には、水田作や茶、果樹及び加工向け露地野菜に関する研究を行っています。

DATA

球磨郡あさぎり町上北

2248-16

tel 0966-45-0470



褐毛和種雄牛「光晴重」



ヒゴサカエ302



天草大王(左)と白色レグホン(右)

稼げる農業を目指して

-現在取り組んでいる試験研究課題の紹介-

畜産研究所

畜産研究所では、おいしくて安全安心な畜産物を生産による稼げる農業を目指して、優良な種雄牛や豚・鶏等の優良系統の作出や家畜飼養管理技術の研究を行っています。

さらに、将来にわたり安定的に畜産を営んでいくため、自給飼料生産や環境保全に関する研究も併せて行っています。

(1) 優良種雄牛の作出

優秀な種雄牛を作出するために、そ



県有種雄牛「平茂幸」

の産子の肥育成績や枝肉成績により遺伝的能力を推定し、種雄牛の選抜を進めています。

特に、平成24年10月に長崎県佐

世保市で開催された「第10回全国和牛能力共進会」では、県有種雄牛「平茂幸」が最も注目されている肉牛の部(第9区)において、全国第2位を獲得するなど高い評価を受けました。

(2) 飼料用米の活用

飼料自給率の向上や水田有効活用の目的のため、肥育牛、繁殖豚及び県産の地鶏「天草大王」への給与試験を行っています。

また、飼料用米、稲WCS※及びエコフィードを利用した肥育牛用のTMR※飼料の研究も行っています。



肥育牛用TMRの給与

※ 稲WCS：稲発酵粗飼料(Whole Crop Silage)

もみとわらを一緒に発酵させて作った飼料のこと

TMR：混合飼料(Total Mixed Rations)

通常、個別に給与する飼料を事前に混ぜて一度に給与できる状態にある飼料のこと



ヒノヒカリ(水稲)



トマト



キャベツ

ラボからこんにちは



稲の交配

高原農業研究所

高原農業研究所では、標高543mと九州で最も標高の高い耕種部門の農業試験場として、地域に密着した品目・品種の選定や高品質安定多収技術の組立実証を行い、農業所得の向上及び地域農業の発展に寄与することを目指しています。

(1) 水田作



水稲では主力品種「コシヒカリ」に替わるような、高冷地域適応性に優れた良質良食味品種の選定と特別栽培米生産への対応技術、また近年、作付けが増加している中生品種「ヒノヒカリ」の高冷地域における安定生産技術について試験を行っています。また、

大麦や大豆の優良品種選定や安定栽培技術についても研究を行っています。

(2) 野菜作



夏秋キャベツでは、近年の肥料価格高騰に加え、温暖化といった激しい気象変化のなかで生産が不安定となっていることから、低コスト栽培技術や安定生産技術について研究しています。

また、夏秋トマトでは生産現場での品種の大幅な変更に伴う栽培技術の再構築や梅雨期の草勢低下対策による生産性の向上技術について検討を行っています。

農産園芸研究所



農産園芸研究所は、合志市(本部)にある、作物や野菜、花きの専門研究所です。

ここでは作物研究室、野菜研究室、花き研究室、バイオ育種研究室の4つのセクションで、育種から栽培技術の開発など様々な研究を行っています。

作物研究室では主に水稲や麦・大豆、野菜研究室ではトマトやイチゴ・ナス・ニガウリ、花き研究室では湿地性カラー、トルコギキョウ、宿根カスミソウに関する研究を行っています。また、バイオ育種研究室では遺伝資源の確保やDNA関連・新品種の開発などの研究を行っています。

こんなものあるよっ!(4~6月)

茶業研究所(御船町)

・製茶研修会(4月上旬)

企画調整部(合志市)

・「農業の新しい技術」公表(5月下旬)

詳しくは、各研究所にお問い合わせください

あなたも、農業の最先端技術を生み出す、研究施設を見学してみませんか。

農業研究センターでは、生産者の方から小中学生等の一般の方まで、視察や見学を随時受け付けています。ご希望の方は希望する研究所または企画調整部(096-248-6423)までお問い合わせください。

DATA

合志市栄3801

tel 096-248-6444

ラボからこんにちは



農研センター

管理部・企画調整部



管理部と企画調整部は、農研センター本部にあり、管理部には総務課、経理課があり、企画調整部には企画課と情報課があります。管理部は、農研センター全体の予算や経理及び施設等の管理を行っています。企画調整部は、各研究所が行っている試験研究の企画及び調整や外部との連絡調整、農業技術情報システムなど、農研からの情報発信を行っています。

DATA

合志市栄3801
tel 096-248-6423



茶業研究所内の茶園



緑茶(蒸し製玉緑茶)

茶業研究所



在来品種の選抜園



品質向上のための被覆試験



茶の審査

中山間地域を中心に栽培され、全国で第4位の栽培面積を持つお茶(緑茶、紅茶)に関する研究を行っています。現在、品種の育成、栽培・製茶技術、及び病虫害防除技術の開発・改良を中心に研究に取り組んでいます。

(1) 茶新品種の育成

香りや味に特徴ある品種や、寒さに強い早生品種の選抜により、県オリジナル品種の育成に取り組んでいます。

(2) 栽培管理技術の開発

近年、干ばつが茶の生育に深刻な影響を与えているため、干ばつが茶樹に与える影響を解明し、干ばつを回避する栽培管理技術の開発を行っています。

また、市場評価の高い緑茶生産技術

の確立を目指して、被覆資材の効率的な活用法、液肥の効果的な使用法や、製茶工程における蒸熱方法に関する研究を行っています

(3) 新規害虫防除対策の確立

平成22年度に県内に発生が確認され、発生地域が拡大している新規侵入害虫「チャトゲコナジラミ」の発生消長等の生態に基づいた効率的な防除技術の開発を進めています。



チャトゲコナジラミの幼虫

農研NOW 春号 平成25年4月



〒861-1113
熊本県合志市栄3801
tel 096-248-6411
fax 096-248-7039
www.pref.kumamoto.jp/site/493
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、企画調整部 情報課 までご連絡ください

管理部
総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部
企画課
情報課
096-248-6423

農産園芸研究所
作物研究室
矢部試験地
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444
生産環境研究所
環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病虫害研究室
096-248-6447

畜産研究所
大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433
茶業研究所
096-282-6851
い業研究所
育種・栽培研究室
加工研究室
作付体系研究室
0965-52-0372

草地畜産研究所
0967-32-1231
果樹研究所
常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723
高原農業研究所
0967-22-1212
球磨農業研究所
0966-45-0470
天草農業研究所
0969-22-4224